

第5回 木曽川・笠松エリア利用調整協議会 開催の記録

I.開催日時

令和5年2月9日（木）15：00～17：00

II.会場

笠松町役場 4階 大会議室

III.次第

1. 開会
あいさつ 笠松町長 古田 聖人
2. 第4回協議会の意見確認 【資料1】
3. 議事
(1) 今年度の社会実験結果について 【資料2～3】
(2) 今後の運営体制について 【資料4】
(3) 次年度計画について 【資料5】
4. その他
(1) 次回の予定など

IV.出欠状況

以下のとおりであった。なお、古田聖人町長の出席も得た。

表 第5回木曽川・笠松エリア利用調整協議会出欠状況

【委員】

区分	選出団体	役職等	氏名	出欠
学識経験者	岐阜大学 流域圏科学研究センター	准教授	原田 守啓	○
地域代表	笠松町町内会連合会	会長	山田 忠正	○
各種団体	笠松町商工会	副会長	加藤 大武	○
	オアシスパーク	取締役統括本部長	松永 武久	○
	十六銀行笠松支店	支店長	川合 毅	○
	笠松競馬場	参与	坂本 浩之	×
	笠松町プロモーション協会	副会長	市川 幸一郎	○
	笠松みなと公園 SUP 同好会	管理者	塚本 幸典	×
	かさまつバザール	代表	柚木 那実	○
行政	笠松町商工会	青年部部長	名和 佑樹	○
	笠松町議会	議長	川島 功士	○
	笠松町	副町長	川部 時文	○

【オブザーバー】

区分	選出団体	役職等	氏名	出欠
行政	木曽川上流河川事務所	事業対策官	上野 好隆	×

【事務局】笠松町企画環境経済部企画課

【公園管理担当課】建設部建設課

※.敬称略

V.配付資料

配付資料は以下のとおりであった。

①次第
②委員名簿
③配席表
④資料 1 第4回協議会結果概要
⑤資料 2-1 令和4年度第Ⅱ期社会実験の概要 令和4年度第Ⅱ期社会実験の実施結果
⑥資料 2-2 令和4年度第Ⅱ期社会実験の実施結果
⑦資料 3 スーパーカーまつり利用者アンケート結果概要
⑧資料 4 今後の運営体制の検討
⑨資料 5 令和5年度の事業計画について

VI.結果概要

(1) 第4回協議会結果について

- ・第43回協議会における委員からの意見とその対応について了承を得た。

(2)令和4年度の社会実験の結果について（今後の事業計画にも関連）

- ・実験実施者からは、笠松町の柔軟な対応が評価されている。
- ・イベントをしなければ集客できないというまとめで良いかどうか。
- ・河川敷では実施できないと考えていたことが実施可能ということがわかった。
- ・恒常的に出店ができる仕組みづくりは今後も進めたい
- ・「いい所だから人が来てくれる」わけではなく、やはり“営業”が重要である。
- ・ペットの場合、目的意識が強く来訪動機になりやすく、消費意欲も強い。

(3)令和5年度の事業計画について

- ・日常使いとイベント等での利用は切り離さず、一緒に考えていく（日常の中で公園の価値を高める、来園者への魅力を高める、という方向性も持ち続ける）。
- ・同じ内容を繰り返しては集客力は低下していくため、継続性確保のために工夫が必要である。
- ・自己財源での活動と補助金ベースでの活動では評価を変えるのが望ましい。
- ・都市・地域再生等利用区域はR5年度以内（年末または年度末）に申請する。
- ・事業者・町内外に対し、公園の良さのアプローチも必要である。
- ・特に学生などによる、公園（やサイクリングロード）の運動利用を進めるのもひとつの「日常」にできるのではないか。

(4)運営体制について

- ・民間企業が公園常駐のかたち（委託）で公園管理に加え自主事業を行うかたちで、運営体制の方向性を確認していく。
- ・運営体制を考えていく中で、公園だけでなく笠松一帯のブランドの価値をどのように高める仕掛けができていくと良い。
- ・企業が公園管理に入り自主事業を行うのであれば、テストマーケティング等をするかたちで弾力的に対応していただけると、事業がやりやすいのではないか。
- ・協議会の機能と運営事業体の機能は、客観的な議論ができる関係性しておく。
- ・どのようにすると皆が動きやすい運営体になるのか、そういう仕組みを作れるのかということが来年度が一番大きなポイントになる
- ・協議会とは別にワークショップ等のアイデアを出し合いながら組み立てている場の設定を検討すると良い。

(5)その他

- ・次回の協議会はR5年秋頃に、社会実験と体制の中間まとめと事業計画について開催を予定する。
- ・「R5年笠松春まつり」を開催するため、企画参加を願いたい。